『モリー先生との火曜日』
ー人生のコーチからのメッセージー

木 岡 深 優

目次

序論
第1章
1. 作品について
2. ミッチ・アルボムとモリー先生の関係
3. 原作と映画の描き方
第2章
1. カリキュラムと講義概要
2. モリー先生が患ったALSとは
3. 病気を発症してからのモリー先生の気持ちと体調の変化
4. 人生のコーチからの最後のメッセージ
5. 卒業式という名の葬儀
第3章
1. モリー先生の死後のミッチ・アルボム
2. 『モリー先生との火曜日』タイトルの意味とは
むすび

この作品を選んだきっかけはタイトルを目にした時、翻訳の原作に巻かれている帯に「人生のコーチが死の前に教えてくれた一番大切なこと」と書いてあるのを見て、モリー先生と筆者との関係とその人生のコーチが命を削ってまで伝えたかった一番大切なこととは何かが気になったことである。

著者であるミッチ・アルボムが大学の恩師であるモリー・シュワルツ先生との再会から最期まで講義形式で録音したテープと著者の思い出によって作られたノンフィクションである。死を目前にモリー先生は私達に『生きる』ことと人生で大切なものについて教えている。

ミッチ・アルボムは、大学を卒業してから仕事の多忙を理由に一度もモリー先生に会わなかった。しかし、ある日の深夜の番組に先生が映っているのを目撃。そこで、ミッチはモリー先生がALSを患っていることを知り、再会を果たすきっかけとなった。

モリー先生が患ったALSとは人間の手や足、顔など、自分の思いどおりにからだを動かすときに必要な筋肉を支配する神経の機能を失う。そして、歩いたり、物を持ち上げたり、飲み込んだりするなど、いろいろな動作ができなくなる病気である。

ミッチは、先生との再会を果たし、人生のコーチの最後の講義が大学時代と同じ火曜日に行われた。そこで、ミッチが学んだことは「一期一会に感謝」、「普段の日常に感謝を忘れない」、そして「相手を思いやる気持ちを忘れない」の3点だと考える。ミッチは、モリー先生の話を聴き自分の生き方や生活を見直したのではないかと考える。

『モリー先生との火曜日』というタイトルをつけたのは、ミッチが先生に「Tuesdays with Morrie(火曜日はモリーとともに)はどうか」と聞いたところ照れながら喜んでくれたのがきっかけだったそうだ。

モリー先生は、亡くなってしまったが、亡くなった今でも作品を通してみんなに愛される存在なのではと私は考える。

(指導教員　中村 敦志)